

④ 国際関係学グループ運営委員会

本委員会は、20年9月、10月の計2回開催し、国際関係学教育における学士力について検討を行った。検討に際しては、現状に対する認識力、基礎的知識力、専門的技能としての分析力、問題解決力、予測能力の面から、①地球社会を認識した共生の態度、②歴史・文明的背景の正確な理解、③多元的・複合的視野からの現状分析能力、④地域社会から地球的規模で問題解決を志向する態度、⑤国際関係論を現実にはめて考察する力として整理し、インターネットで国際関係担当教員（サイバーFD研究員）110名に意見を求めたところ、11名から「国際関係の基礎である国家を単位とする相互関係の理解が欠落している、グローバル化の中で協働・共生にかかわる力が必要、普遍的価値と地域固有の価値の双方を視野に入れる」などの意見を踏まえ、知識、技能、態度の3項目として構成を見直し、以下の通り中間的にとりまとめた。

<国際関係学教育における学士力>

1. 現代の国家、地域、国際組織などで構成する国際関係の基礎的な仕組みとその背景を理解できる。
2. 国際的な課題等について、国家、地域、国際社会の観点から調査・考察し、多元的・複合的な分析ができる。
3. 国際社会と国家、地域、個人との関係を認識し、国境を越えて協力し、支え合う態度を身につけることができる。